

平成22年 5月 14日現在

研究種目：基盤研究（C）  
研究期間：2007～2011  
課題番号：19520263  
研究課題名（和文） シュトゥルム・ウント・ドラングとヨーロッパ文化史との比較研究

研究課題名（英文） Comparative Study of Sturm und Drang and European Culture

#### 研究代表者

今村 武（IMAMURA TAKESHI）  
東京理科大学・理工学部・准教授  
研究者番号：60385531

研究代表者の専門分野：ドイツ文学

科研費の分科・細目：2902（英語以外のヨーロッパ系文学）

キーワード：シュトゥルム・ウント・ドラング、ドイツ文学、概念史、文化史、比較研究

#### 1. 研究計画の概要

ドイツ文学史における概念「シュトゥルム・ウント・ドラング」（本邦では「疾風怒濤」）は、とりわけ英仏文学史、音楽学、美術史にまでその使用が拡散している。その際、18世紀の同時代における芸術諸分野でのいわゆるシュトゥルム・ウント・ドラング的な革新的傾向の作品群の同時的成立が指摘されているのである。そこでヨーロッパ文化史全体を視野に入れつつ、ドイツ文芸学において狭義の時代概念として捉えられてきたシュトゥルム・ウント・ドラングをむしろ様式概念として新たに定義・理解するために、この概念の発生と変遷の歴史を綿密な文献学的な作業を通じて明らかにするとともに、関連諸芸術分野における同時代的・類似の現象を考察し、学際的・国際的なシュトゥルム・ウント・ドラング研究の基盤を整備する。

#### 2. 研究の進捗状況

(1) 本研究計画を遂行することで、シュトゥルム・ウント・ドラングの来歴とその影響圏が明らかとなった。それはスイス、バルト海沿岸地域、ケーニヒスベルク、デンマークにおいて萌芽し、フランス領シュトラスブルクにおいて開花する文学である。さらにそれは、時を同じくして進行する、芸術諸分野における革新的傾向を持つ作品群と有機的関連の中で理解されるべきものである。

(2) バルト海沿岸地域におけるドイツ語文化とケーニヒスベルク、そしてドイツを結ぶ文化的な移動と接点に着目して、極めてドイツ

的といわれるシュトゥルム・ウント・ドラングの発端が、むしろ周縁地域、植民地域にあることを指摘した。これにより「周縁知地域におけるアイデンティティ」という、これ以後に取り組むべきテーマと対峙した。これは本邦のみならず、中国文化、西欧文化研究においても重要なキーワードとなっている。

(3) 学会発表は毎年2回以上（研究会での発表を含めると4回以上）、ドイツ語論文を含めて2編以上の論文を発表し、本研究計画を遂行することによって得られた新たな知見を遅滞なく公表した。

#### 3. 現在までの達成度

① 当初の計画以上に進展している。

本研究計画を遂行することで得られた新たな知見を十全に反映した全260頁の研究書『シュトゥルム・ウント・ドラング研究』を刊行した。

さらに、本研究計画を遂行することによって開拓された新たな研究領域「西欧文化史の比較研究」を遂行するために、新たに学際的な研究グループを結成した。これは英文学、アメリカ文学、フランス文学、美術史、そしてドイツ文学を専門とする研究者によって結成されている。

#### 4. 今後の研究の推進方策

本研究は、レンツ文献学の研究を基軸として、シュトゥルム・ウント・ドラングの全体像、英仏文学との関係、音楽史、美術史との関連性を追求した。

さらにシュトゥルム・ウント・ドラングの展開するアルザス・ロレーヌ地域の文化史、アンシャン・レジーム批判、ドイツ語純化運動、教育・社会制度改革、音楽、オペラ、バレエの各分野における同時的な革新活動との関連性、バルト海沿岸地域におけるその萌芽を対象とした。

その結果、ケーニヒスベルク（カント）における啓蒙の直接の摂取、バルト海沿岸地域における啓蒙の実践、アルザスにおける全面展開という問題領域を形成する新たな視点を発見した。

この研究を継続発展させるため、深化させた研究計画を持って科学研究費補助金に終了前年度応募し、採用された。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

- ①・Takeshi Imamura, Das Baltikum im Schaffen Herders und Lenzens. Goethe-Jahrbuch. LI. Band, 2009, 40-55. 査読有
- ②・今村 武, 18世紀のケーニヒスベルクと疾風怒濤、上智大学ドイツ文学論集、第46号、3-41、査読有
- ③・Takeshi Imamura, Die deutschbaltische Gesellschaft in J. M. R. Lenz ' Drama ,Der verwundete Bräutigam ', Tokyo University of Science. Studies in Liberal Arts and Sciences. Nr. 41, 2008, 285-298, 査読有
- ④・Takeshi Imamura, Sturm und Drang als stilgeschichtlicher Begriff. Kulturwissenschaftliche Germanistik in Asien. Band 2. Hrsg. Von der koreanischen Gesellschaft für Germanistik. Seoul 2008, 77-78, 査読有
- ⑤・今村 武, 疾風怒濤のパミラ、日本比較文学会東京支部、日本比較文学会東京支部研究報告、第5号、2008年、10-15、査読有

[学会発表] (計13件)

- ① 今村 武, スイスの疾風怒濤詩人フェスリとイギリスのロマン主義、日本比較文学会第47回東京大会、2009年10月17日、千葉大学西千葉キャンパス
- ② 今村 武, ヘルダーとレンツにおけるケーニヒスベルク、日本独文学会春季研究発表会、2009年5月30日、明治大学駿河台キャンパス
- ③ Takeshi Imamura, Das Baltikum und die

Sturm und Drang Literatur. Asiatische Germanistentagung 2008 in Kanazawa. 28. August 2008. Kanazawa Seiryō Universität.

- ④ 今村 武, バルトドイツ人の文化と疾風怒濤、日本独文学会208年度春季研究発表会、2008年6月14日、立教大学

[図書] (計1件)

- ① 今村 武, シュトゥルム・ウント・ドラング研究、南窓社、2009年、260頁

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]